

先端研究基盤共用促進事業（先端研究設備プラットフォームプログラム）

中間評価結果

機関名	顕微イメージソリューションプラットフォーム
事業概要	世界唯一で最先端の高分解能・高感度イメージング装置の共用により、基礎物理からマテリアル、バイオ、環境、エネルギー、宇宙までの幅広い分野における物質の構造からその機能（元素・同位体・電磁場などの分布）まで多面的な顕微イメージングソリューションを提供する。各先端分析技術の融合による新たなイノベーション創出を推進する人材を育成する。バーチャルな研究機関として継続的な活動を続けられる組織を構築する。
評定（総合評価）	コメント
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォーム整備の進捗状況も良好で、遠隔化・自動化や人材育成においても計画以上の進展がある。特に、本プラットフォームを用いた科学的成果がトップジャーナルに3報掲載された点、若手がキャリアアップされている点は高く評価できる。</li> <li>引き続き事業を発展させ、資金面の充実を図ることや、事業終了後の継続性に関する戦略の検討が望まれる。</li> </ul>
評定（個別評価）	
① 進捗状況	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンサル機能強化、遠隔操作システム、複合解析ソリューション等が順調に進捗している。利用料収入、利用件数は前年度よりも増加しており、今後さらに増加することを期待する。</li> </ul>
② 実施体制	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業が積極的に体制に関与している。</li> <li>運営委員会の開催に関して、技術スタッフ等が参加し現場の意見をくみ上げている。</li> </ul>
③ 研究施設・設備の連携	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>充実したワンストップサービス、特に複合解析ソリューションに特徴があり、学会等でのPRなども含め参画機関の連携強化が進んでいる。</li> <li>装置ポータルを構築し、集約した情報の活用や対話式受付システムなどにより継続的・効率的な運営に向けた施策が実施されている。</li> </ul>

④ 遠隔化・自動化等に係るノウハウ・データの共有	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>リアルタイムの画像配信技術による遠隔立合いや遠隔地からの機器操作による共同作業などの遠隔操作システムが構築・運用されている点は素晴らしい。</li> <li>機密性の高いデータも取り扱うため、サイバーセキュリティ対策について今後検討することを期待したい。</li> </ul>
⑤ 専門スタッフの配置・育成	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>各共用装置には、主担当者に加え複数の専門職員・実験補助者が配置されている。</li> <li>技術交流会や複合解析ソリューションによる育成プログラムにより、一部のスタッフが認定資格を取得し、5名がキャリアアップするなど、順調である。</li> </ul>
⑥ 資金計画	コメント
b	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用料収入は増えているが、本事業終了後にプラットフォーム運用が縮小されないよう、利用料収入の安定化、民間資金の獲得等の戦略が必要である。例えば、世界から利用料収入を得るなどの利用者層の拡大による利用料収入の増加等、持続的運営に資する戦略やロードマップの早急な策定が求められる。</li> </ul>
⑦ その他の政策との連携	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>産学官連携、若手研究者の支援等を通して研究開発活動を活性化し、科学的成果創出に寄与しており、今後の結果が期待される。</li> <li>コアファシリティ構築支援プログラムや ARIM 等と連携が図られている。</li> <li>今後は、新たなイノベーション創出や研究力強化に向けて、更なるスタートアップを含む民間企業との連携や海外連携の強化が期待される。</li> </ul>
備考	なし